

SOCIUS

No.18

2023

[ソシアス]

仁愛女子短期大学 総合学務センター
入学・地域支援課 地域連携室

INDEX

1. はじめに	
・大学における地域連携の重要性	河野久寿 1
2. 公開講座	
・木製ロボットとプログラミングで遊ぼう！	田中洋一 2
・さあ、マックでお絵かき。	西畑敏秀 3
・木を使った造形あそびに挑戦してみよう	重村幹夫 4
・福井の食を知る②「ふくい発酵食品」 ～ドレッシングづくり体験～	小林恭一 5
・令和5年度 幼稚園教諭・保育教諭等キャリアアップ研修 (共催：福井県私立幼稚園・認定こども園協会)	増田 翼 6
・染め&プリント体験	前田博子 8
・親子のための楽しいコンサート	河野久寿 9
・食育講座 ～親子でデコレーションケーキづくり～	森 恵見 10
・食育講座 ～練り切り講座～	森 恵見 11
・Autumn English Camp -自然の中で英語を学ぼう！-	野本尚美 12
3. 自治体等との連携事業	
・自治体と仁愛女子短期大学との連携事業報告	入学・地域支援課 13
・令和5年度 保育研究合同発表会	増田 翼 14
・「木づかい体験会」への参加について	幼児教育学科 岡田祐季 16
4. 幼児教育学科卒業生対象 幼教ホームカミングデー	増田 翼 17
5. 図書館の活動報告	竹下真弓 18
6. 令和5年度報告 福井市子ども家庭センター 子育て支援室・相談室	安井弘二 20
7. 社会的活動報告	
・県外で活躍する福井県企業の魅力を動画で発信するプロジェクト	澤崎研究室 22
・デザインの力で社会貢献	生活情報デザイン専攻 23
・これからの地域デザインのあり方の模索、研究	前田博子 24
・栄養士養成課程における郷土の食文化継承	森 恵見 26
・保育の魅力発信事業	入学・地域支援課 27
・季節を感じられる壁面装飾を届ける	幼児教育学科 高橋采希 28
・福井新聞社主催「ふくまむ祭」への参画	幼児教育学科 木下ゼミ 29
・学生と地域の子どもが触れ合う環境づくりプログラム 「じんあいこどものくに」	幼児教育学科 30
8. 公開講座開講一覧	32
9. 教員の地域活動一覧	35
10. 管理栄養士国家試験対策リカレント講座	37

はじめに

大学における地域連携の重要性

地域連携室長 河野 久寿

大学における地域連携の重要性については以下のように要約することができる。

一つ目が地域社会のニーズへの適応。大学は地域社会のニーズや課題に敏感である必要があり、地域連携を通じて、大学は地域のニーズに合わせた教育プログラムを開発し、地域社会の発展に寄与します。

二つ目が知識・技術の共有。大学は高度な知識や専門技術を保持しており、地域連携を通じて、大学が持つ知識や技術を地域社会と共有し、地域の発展を支援します。

三つ目が人材育成と社会貢献。大学は人材の育成と社会貢献の場でもあり、地域連携を通じて、大学は地域の人材育成や社会貢献活動を支援し、地域社会の人材レベルの向上や社会的課題の解決に貢献します。

最後に社会的責任の履行。大学は地域社会と密接に関わりながら、その社会的責任を果たす必要があります。地域連携を通じて、大学は地域社会の発展や課題解決に積極的に貢献しながら地域社会との信頼関係を構築します。

以上のように、大学における地域連携は、社会に貢献するための重要な手段の一つであり、地域社会のニーズや課題に真摯に向き合い共に解決策を模索することで、持続可能な発展を促進し、地域の繁栄に貢献することができます。

「SOCIUS」とは、ラテン語で「仲間」「友」を意味し、この言葉から「societas」という「親交・友愛・絆」を意味する言葉ができ、社会を意味するsocietyという英語が生まれたと言われています。また、「SOCIUS」という言葉は「分かち合っている・結びつけられた」という意味を持つ形容詞でもあります。地域と短大を結び合わせることによって、新しい仲間が増え、つながり合い、愛や絆が無意識的に感じられるような「社会づくり」を目指したいという願いが込めら

れています。

本機関誌「SOCIUS」が、仁愛女子短期大学と地域社会との連携を深め、今後もより良いパートナーシップを築きながらより良い未来を築いていく一助となることを願います。



木製ロボットとプログラミングで遊ぼう！

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 教授 田中 洋一

【日 時】 7月22日(土) 14:00~15:00

【場 所】 仁愛女子短期大学 F203

【参加人数】 親子6組17名

生活科学学科生活情報デザイン専攻の田中洋一です。令和5年7月22日(土) 14~15時、木のおもちゃキュベットと一緒に遊びながらプログラミングの基礎を身につける公開講座を開催しました。今回は、4歳から9歳までの6組17名の親子に参加していただきました。また、幼児教育学科1年の隠居さん・小松さん・平瀬さんが学生スタッフとして手伝いました。この3名は、1年前期選択科目「おもちゃ研究」の4回目に、キュベットを用いたプログラミング教育を経験した学生です。



木製ロボットプログラミング教材キュベット（プリモトイズ社）は、「直進」「左回転」等の動作を表すブロックをボードにはめ、スイッチを押すと、木製のロボットが指示通りに動き出すおもちゃであり、グッド・トイ2018にも選ばれています。キュベットが開発されたイギリスでは、5歳児からのプライマリースクール（初等教育）において、プログラミング教育を含む「Computing」が2014年に必修となっています。また、イギリスでは2012年に就学前ナショナル・カリキュラム（EYFS2012）が策定され、2018年には日本でもキュベット用EYFS準拠の指導案（イギリス）を用いた試行が始まっています。

今回の公開講座は、次のような流れで実施しました。

- ①あいさつ、今日の約束
- ②手遊び「アブラハムの子」
- ③キュベットと仲良くなろう！※仕組みを確認する。

④キュベットのお話を作ろう！

⑤キュベットとクイズをしよう！

「キュベットは、どこへ行く？」

⑥青ブロック（サブルーチン）を使ってみよう！

⑦振り返り

本講座終了後のアンケート（家族ごと）によると、とても満足3件、満足1件、普通1件であり、自由記述からも全家族が楽しめたようです。



「初めてのプログラミングでしたが、親子共々とても楽しめました」「遊べる年齢の幅が大きくて、とても良いおもちゃだと思いました」「説明がとても分かりやすかったです。仁短のお姉さんも優しく、ありがとうございました」「もう少しだけ難しい方がよかったです」という意見がありました。

学生スタッフ小松さんは、「キュベットで子供たちが遊んでいる様子を見ると、このブロックをはめればこう進むと理解して遊んでいる子と実際にはめてみてどの方向に進むか観察して行っていく子と別れていたように思う。保護者の方や見守る私たちが手助けしなくても一生懸命考える姿や失敗しても兄弟や友達同士で助け合う姿が見られ、キュベットは試行錯誤していく力を身につけるだけでなく協同性も育める教材である事を感じた。」と感想を述べています。

小学校からプログラミング授業が実施される現在、幼児向けのプログラミング遊びは重要だと思います。本講座の参加理由も、プログラミングに興味があった家族が多かったです。今後も継続的に本講座を実施していきたいと考えています。

公開講座

さあ、マックでお絵かき。

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 教授 西畑 敏秀

【日 時】 8月22日(火) 10:00~12:00

【場 所】 仁愛女子短期大学 B411 (CG室)

【参加人数】 9組18名

本学の学びの一つである「デザイン表現」を体験できる公開講座を開講しました。受講者にはApple社のMacを使って、実際に世界中のデザイナーが利用するアプリ「Illustrator」で、デザインの基本となる色の使い方や図形の描き方を学んでいただきました。水玉模様のさまざまな配色を楽しむデジタル塗り絵や(写真1)、三日月や星☆を自由にアレンジした

り(写真2)、最後には自分の名前をデザインすることを目標に(写真3)様々な課題に挑戦していただきました。

最初はMacに戸惑っていた受講者の方々も「Illustrator」の使い方に慣れてくると自分で自由自在にデザインしている様子でした。わずか2時間の公開講座でしたが、親子で楽しく学んでいる姿が印象的でした。学生スタッフにも協力してもらったおかげで、受講者からは、「学生の皆さんが、近くでとても丁寧に親身に教えてくださったので、リラックスして楽しく学べた。」といった感想もいただきました。



(写真1/水玉模様のデザイン)



(写真2/三日月や星のアレンジ)



(図3/自分の名前をデザイン)

公開講座

木を使った造形あそびに挑戦してみよう

幼児教育学科 教授 重村 幹夫

【日 時】 8月26日(土) 10:00~11:30

【場 所】 仁愛女子短期大学 F102

【参加人数】 親子8組26名

【備 考】 ゼミ生1名が補助として参加

昨年同様に、木を使った造形あそびを実施しました。実施後のアンケートの結果は概ね好評でしたが、造形あそびの特性上、取りかかりに戸惑う子どもが若干見られました。また、参加された保護者の教育意識が高く、かえって子どもの活動に干渉しすぎて

いるように見られる場面もありました。このような場で最終的な判断を行うのは子どもたち自身でなくてはなりません。

会場設定に使った材料が多く後片付けが大変でした。これについては、今後は受講者の皆さんに手伝っていただくよう考えていきたいと思っています。



福井の食を知る② 「ふくい発酵食品」～ドレッシングづくり体験～

生活科学学科 食物栄養専攻 教授 小林 恭一

【日 時】 9月2日(土) 10:30～12:00

【場 所】 仁愛女子短期大学 B101

【参加人数】 8組12名

豊かな自然に恵まれる福井県には、米、麦、ソバ、ウメ、ラッキョウ、カニなど、里・山・海の幸すべてが豊富に揃っています。このような豊かな福井の食の魅力について学ぶ企画として「福井の食を知る」と題した公開講座を開催しています。歴史や文化、栄養や健康維持に役立つ機能、おいしさなど、知っているようで案外知らないものです。そこに関わった先人達の努力も忘れてはなりません。



2回目となる今回は発酵食品を取り上げました。里・山・海の幸に恵まれた福井県には、古くからへしこやなれ寿司、酒、味噌、醤油、酢など様々な発酵食品があります。これらは、発酵というプロセスによって、旨味や風味が増し、保存性が高まるだけでなく、私たちの健康にも役立つことがわかってきました。そんな「ふくい発酵食品」の特徴やおいしさ、そこに関わる微生物の働きについて解説いたしました。

発酵に欠かせないのは肉眼では見ることのできない小さな微生物です。食中毒を引き起こしたり、食べ物を腐らせたり、人間にとって害となるものもありますが、私たちの役に立つ有益なものもあります。カビや酵母、乳酸菌などの微生物の働きによる発酵食品は世界中にあり、そ

の地域の食文化を育んでいます。

例えば味噌。福井の味噌蔵では加温せず1年かけじっくり熟成させる天然醸造を行うところが多く、熟成中はカビの一種である麹菌のほかに酵母や乳酸菌などが働き風味豊かで複雑な味わいを形成しています。味噌は麹を何で作るかで、米味噌、麦味噌、豆味噌に分類されます。福井の味噌は米麹と大豆、塩で作る米味噌がほとんどです。日本で造られる味噌の8割が米味噌で、米麹や塩の割合、熟成期間の違いで辛口のものから甘口のものまで様々です。麹歩合を高くすると甘めになりますが、福井の味噌は、北陸の辛口味噌の中でも米麹の割合を多くして甘めにしているのも特徴です。

醤油も大手メーカーのものとは味が異なります。福井も含め北陸の醤油は甘いのが特徴ですが、製法の違いに起因しています(九州の醤油も甘いと言われていますが、甘さ、味の質は異なるようです)。

そこで、ドレッシング作りに先だって、まず、ドレッシングで使用する福井の醤油と大手メーカーとの味比べを行いました。参加された方は、普段使い慣れた醤油の味の違いに驚かれたようです。この醤油に福井県産の米酢を加え和風ドレッシングを作っていただきました。

これからも、魅力あふれる「福井の食」について、加工体験をとおして楽しく学べる公開講座を企画してまいります。



公開講座

令和5年度 幼稚園教諭・保育教諭等キャリアアップ研修 (共催：福井県私立幼稚園・認定こども園協会)

幼児教育学科 准教授 増田 翼

福井県の現場保育者を対象とする研修会は数多く実施されていますが、その一つに、福井県私立幼稚園・認定こども園協会主催の「幼稚園教諭・保育教諭等キャリアアップ研修」があります。これは、幼児教育・保育現場の現状や課題を考え、乳幼児期の教育の充実及び保育者の資質向上を図ることを目的とする研修会で、これまで毎年開催されてきました。2023年度は、その研修パッケージの一部を仁愛女子短期大学との共催というかたちで開催しました。日程・内容等の詳細は次の通りです。

「保育ドキュメンテーション」って、どういうこと？
～保育ドキュメンテーションの活用あれこれ～

子どもと保育者が共に響き合い、学び合うという保育。それは、時間をたっぷりかけながら、子どもたちの関心事を深く追究・探究するなかで実現していきます。そうした保育の在り方をサポートしたり、より充実したものにしたりするためのツールとして、昨今「保育ドキュメンテーション」が注目されています。さあ、「保育ドキュメンテーション」について皆さんで考えてみましょう！

- 日 時

8月28日(月) 14:00～16:30

- 会 場

仁愛女子短期大学 C421

- 対 象

保育に興味のある高校生、保育を学んでいる大学生、幼稚園教諭・保育教諭・保育士およびその関係者(参加者：計57名)

- 受講料 無料



子どもの姿を捉える、とは言うけれど…

～あなたとわたしの「ちがう」が大切～

保育者としてのあなたには、子どもの何が見えていますか？もちろん、見えていない部分もあるかもしれません。そもそも、ほかの先生は、何を見ているのでしょうか？「子どもの姿を捉える」とはよく聞くフレーズですが、そんなに簡単なことではないですよね？些細なトピックをいくつか挙げながら、参加者の皆さんは普段、何を見ているのか、共有してみませんか？

●日 時

8月29日(火) 14:00～16:30

●会 場

仁愛女子短期大学 C421

●対 象

保育に興味のある高校生、保育を学んでいる大学生、幼稚園教諭・保育教諭・保育士およびその関係者（参加者：計43名）

●受講料 無料

両日ともに「子ども理解」というキーワードを中心に据えながら、参加者同士のグループワークを通じて普段の保育を振り返り、見方・考え方を広げていけるような研修内容を用意しました。このような共催のかたちでの研修会については、2024年度も引き続き実施していく予定です。



染め&プリント体験

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 准教授 前田 博子

【日 時】 9月9日(土) 10:00~12:00

9月30日(土) 10:00~12:00

【場 所】 仁愛女子短期大学 中庭・B401

【参加人数】 7名

本講座は2回のワークショップからなるものです。1回目は伝わりやすいイラストの講習会を実施し、○△□を使ったイラストを描いてもらいました。そして参加者全員で1反(13M)の布を染めました。1回目に描いてもらったイラストはデータ化したのち参加者全員分のイラストが入ったスクリーン枠を作成しました。これは次回のプリント作業に使用するものです。(図1、図2)

2回目は1回目に染めた布にスクリーンプリントしました。(図3、図4) 顔料を用いてスクリーンプリントを行いました。顔料は天然繊維、化学繊維どれにでもプリントができます。本学で用意したものは綿100%の浴衣生地ですが、参加者の方はTシャツやトートバックを持参され、それらにも同様にプリントが出来ました。それぞれが描いたイラストが柄となったことで、一点物の作品に仕上がりました。今回参加してくださった方は見知らぬ人同士ですが、同じワークショップを体験したことを記憶する「おそろい物」となりました。これは共有資材のあり方をワークショップを通して模索したものです。



図1: 1反を染めている様子



図3: 参加者全員のイラストが入ったスクリーン枠



図2: イラストを描いている様子



図4: スクリーンプリントをしている様子

親子のための楽しいコンサート

幼児教育学科 准教授 河野 久寿

【日 時】 9月30日(土) 10:30~11:30

【場 所】 仁愛女子短期大学附属幼稚園 体育館

【参加人数】 117名

仁愛女子短期大学公開講座と附属幼稚園みのりくらぶ共催で、「親子のための楽しいコンサート」を開催し、多くの方にお越しいただきました。子どもたちは聞くだけではなく終始自由な感じと一緒に歌ったり振り付けや体を動かしたりと参加型のコンサート。演奏は河野ゼミ学生の他、ドラムの上坂朋佑氏とベースの小澤宣明氏、音楽学科卒業生のフルートの林美緒氏をゲストに楽しい演奏となりました。学生は実習等で練習も1回のみと準備時間がない中、手遊びしたり歌ったり踊ったり手話したりと持てる力を十分に発揮しました。



○性別

	男性(男児)	女性(女児)	合計
保護者	12	35	47
子ども	27	39	66

○年齢【保護者】

20代	30代	40代	50代	60代
2	28	15	0	2

○年齢【子ども】

未就学児			小学生	
0~2歳	3~4歳	5~6歳	1~3年生	4~6年生
11	20	25	9	1

【参加者の感想（抜粋）】

- ・出演者皆さんが明るくハキハキと進行されていて、とても聞きやすかったし、とても楽しめました。1時間があったという間でした。
- ・子どもに馴染みのある曲がたくさんあり、「あ！これ知ってる！」や一緒に体を動かすととても楽しんでいました。子どもが騒がしくてもOKなのも、ありがたかったです。
- ・CDじゃなくて生演奏というのが、とても良かったです。
- ・小さい子でも気兼ねなく参加でき、歌も子どもが知っているものばかりでよかったです。 など

～プログラム～

1. 開演前の手遊び
2. さんぽ
3. 崖の上のポニョ
4. ひこうき雲
5. にじ
6. ダンゴムシのうた（学生オリジナル）
7. ドレミの歌
8. リズムワークショップ
9. エピカニクス
10. ともだち讃歌
11. パプリカ
12. ほよよん行進曲



公開講座

食育講座 ～親子でデコレーションケーキづくり～

生活科学学科 食物栄養専攻 講師 森 恵見

【日 時】12月24日(日) 10:00～12:00

【場 所】仁愛女子短期大学 C115 (調理実習室)

【参加人数】13組42名

毎年、年末の恒例となりました“食育講座～親子でデコレーションケーキづくり～”が、今年はホワイトクリスマスへの期待が高まる12月24日に開催され、大変盛況でした。14名の学生が参加し、各家庭に1名がサポート役として配置され、作業はスムーズに進行しました。



生クリームを泡立てている様子



デモの様子

(注意事項や作り方のポイントを皆さん真剣に聞かれています)



ケーキの中にサンドするフルーツをのせている様子

参加者のお母さんからは、「自宅では私が動かなければならないような準備や洗い物など、こまごまとしたことを学生さんが手際よくやってくださったので、子どもとの作業に集中でき非常にありがたかったです」という好意的な感想をいただきました。サポートの学生からは、「ケガのないよう声掛けしながら、作業を進めることができた」「子どもの名前を呼んだり、目線を合わせたりして楽しくコミュニケーションが取れるよう気がついた」「他のテーブルと同じように進められるように、気を配った」と述べ、学生なりに考えながら行動できたようで、学びの多い時間だったのではないかと思います。

子どもたちからも、「むずかしかったけど楽しかったです。」「おねえさんがおしえてくれて、わかりやすかったです。」と感想があり、充実した時間だったことが分かり、私も嬉しく思います。

今年度の食育講座にご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。完成したケーキはどれも華やかで个性的であり、子どもたちの満足そうな笑顔が印象的でした。

公開講座

食育講座 ～練り切り講座～

生活科学学科 食物栄養専攻 講師 森 恵見

【日 時】 3月2日(土) 10:00～12:00

【場 所】 仁愛女子短期大学 C115 (調理実習室)

【参加人数】 6組12名

上生菓子的一种である練り切りアートの講座を、練り切りアート認定講師である森忠栄美先生に講師をお願いし、開催しました。本講座では、可愛らしいデコレーションの練り切りを学びました。開催日は3月2日で、ひな祭りにちなんだ練り切りのデザインを行いました。練り切りの材料は全て準備し、参加者は工作のように楽しみました。



先生のお手本



先生のデモを真剣に見学する様子

実際に和菓子職人が使用する三角棒を使用することで、参加者は少しの間、職人気分を味わいました。先生から丁寧に一つずつ指導を受け、参加者はこだわりを持ちながら時間をかけて作品を仕上げました。また、一つ一つの作業は非常に細かく、集中力が必要で、参加者の方は無言で黙々と作成されていました。



親子で三角棒を使って模様をつけている様子



細かい作業は竹串を箸に見立てて使います

参加者からは、「楽しかったし、少し食べたらいいしかったです。家に帰ってからも楽しみです」や「奥深くて難しかったです、完成した時の達成感は素晴らしいかったです」など、好意的なコメントをいただきました。皆さん笑顔で会場を後にしました。

Autumn English Camp – 自然の中で英語を学ぼう！ –

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 准教授 野本 尚美

【日 時】10月28日(土) 13:30~16:00
 【場 所】仁愛女子短期大学 学生ホール・芝生広場
 【参加人数】小学1~3年生の親子5組11名
 【協 力】福井県キャンプ協会
 (講師派遣、キャンプギア等)

昨年に引き続き、今年度も英語とキャンプを組み合わせた公開講座「Autumn English Camp –自然の中で英語を学ぼう!–」を開催しました。本学園職員でもあり福井県キャンプ協会会員でもある山田浩隆さんにご協力いただき、ゲームやプチキャンプ体験を通して英語を学んでもらいました。

～内 容～

- ・アイスブレイク
(バースデイチェーン・キャッチゲーム)
- ・薪割りレクチャー&薪割り体験
- ・火起こし体験
- ・焼きマシュマロ体験
- ・英語の絵本読み
- ・英語ビンゴゲーム

当日の朝はあいにくの雨でしたが、午後からは晴れ間も見え過ごしやすい天気となりました。まずは簡単なアイスブレイクとしてバースデイチェーンとキャッチゲームを行い、12ヶ月の英単語(January, Februaryなど)や「キャ」から始まる英単語(catch, cat, castle, cabbageなど)を学んでいただきました。

その後、屋外に出て木材の特徴についてのレクチャーと、キャンプギアを使っての薪割りを親子で体験してもらいました。大人が支える薪を子どもたちが金槌を使って打ち込み、焚火に適した太さの薪をたくさん作っていただきました。次に、起こした火を使ってみんなで焼きマシュマロを楽しみました。最後は英語の絵本読みと英語ビンゴゲームを行いました。

参加者の方からは「お天気が心配でしたが、無事にできてよかったです。英語に親しめたらなというのがきっかけでしたが、思っていた以上に本格的なキャンプの体験もできて、とても楽しかったです」「焚火(火おこし)が初体験で、子どもは目を輝かせて集中していました。IHが多い中、このような原始的な体験はとても大切だと再確認しました」「英語のゲームは緊張しましたがとても楽しかったです。火おこしや薪割りなど非日常体験ができてよかったです」などのご感想をいただきました。



アイスブレイクの様子



薪割り体験



ファイヤースターターと火吹き棒を用いた火起こし体験



焼きマシュマロ体験



英語ビンゴゲーム

自治体等との連携事業

自治体と仁愛女子短期大学との連携事業報告

総合学務センター 入学・地域支援課

協定に基づいて、今年度も相互に連携・協力して様々な事業を行いました。

【永平寺町】

○気になる子への関わり方（園巡回）

内 容：子どもの見方、支援の方法等

講 師：本学幼児教育学科 准教授 中尾繁史

開催日：令和5年5月26日(金) 志比幼児園
令和5年5月29日(月) 上志比幼児園
令和5年6月5日(月) 志比北幼児園
令和5年6月9日(金) 御陵幼児園
令和5年6月15日(木) 志比南幼児園
令和5年6月23日(金) なかよし幼児園
令和5年7月7日(金) 吉野幼稚園
令和5年7月14日(金) 御陵幼児園
令和5年7月21日(金) オンライン
令和5年10月13日(金) 松岡東幼児園
令和5年10月24日(火) 上志比幼児園
令和5年10月27日(金) 松岡東幼児園
令和5年10月27日(金) 御陵幼児園
令和5年11月6日(月) 吉野幼稚園
令和5年11月13日(月) 志比北幼児園
令和5年11月21日(火) オンライン
令和5年11月28日(火) 松岡東幼児園
令和5年12月13日(水) 志比幼児園
令和5年12月19日(火) 志比南幼児園
令和5年12月22日(金) なかよし幼児園
令和6年1月12日(金) 志比幼児園

【森田地区】

○JR森田駅構内の夢ギャラリー森田へ作品等展示

令和5年5月 附属図書館
令和5年7月 入学・地域支援課
令和5年9月 食物栄養専攻
令和5年10月 生活情報デザイン専攻
令和6年1月 幼児教育学科
令和6年3月 入学・地域支援課



附属図書館（5月）



食物栄養専攻（9月）



幼児教育学科（1月）

令和5年度 保育研究合同発表会 (福井市・仁愛女子短期大学幼児教育学科 合同発表会)

幼児教育学科 准教授 増田 翼

2019年度から開始された「保育研究合同発表会」も、2023年度で5回目を迎えました。この発表会は、包括連携協定を結んでいる福井市との協働による開催で、学生の学修成果と現場保育者の研究成果を互いに発表し合い、学びを深める場として位置づけられています。2023年度は、前年度と同様にWeb上（YouTubeチャンネル）における動画公開および対面発表によって学修成果・研究成果を互いに共有しました。2023年度の実施内容の詳細は次の通りです。

【YouTubeによる学修成果・研究成果発表】

- 公開期間
2024年1月26日（金）～2月12日（月）
- 内 容
 - ・福井市および仁愛女子短期大学からのメッセージ
 - ・福井市公私立園の研究成果と課題発表
 - ・仁愛女子短期大学幼児教育学科2回生「保育総合ゼミナール」学修成果発表
- 視聴対象者
福井市公私立園保育者、仁愛女子短期大学幼児教育学科1・2回生
仁愛女子短期大学入学予定者（高校3年生：入学前教育）
その他、福井県内現場保育者、行政関係者、保育者養成校教職員など

【対面開催による「保育総合ゼミナール：学修成果発表会」および「分科会」】

- 日 時
2024年1月27日（土）12：30～16：00
- 場 所
仁愛女子短期大学
- 内 容
12：45～14：30（5会場）
幼児教育学科2回生「保育総合ゼミナール」学修成果発表
福井市公立研究指定園 研究成果発表
14：45～16：00
分科会（7会場）
- 参加者
福井市公私立園保育者、
仁愛女子短期大学幼児教育学科2回生



前年度に引き続き、対面開催による「保育総合ゼミナール：学修成果発表会」では、学生の学修成果に対して現場保育者の方々からご指摘、ご意見、ご感想などをその場で頂戴することができました。また、福井市公立研究指定園の先生方の研究内容を拝見させていただくことで保育現場での研究の様子も知ることができ、学生自身にとってはたいへん貴重な機会となりました。後半の「分科会」では、現場の先生方と一緒に保育に関する学びを深めることができました。以下に、2023年度保育研究合同発表会のYouTubeチャンネル（図1）、対面開催による学修成果発表会（図2）、分科会（図3）の様子を掲載しておきます。



図2 保育総合ゼミナール学修成果発表会



図3 現場保育者および学生の参加による「分科会」



図1 2023年度 保育研究合同発表会 YouTube チャンネル

「木づかい体験会」への参加について

幼児教育学科 2回生 岡田 祐季

今年度、香月ゼミでは、福井県農林水産部県産材活用課と連携し、ふくいの木を活用した「木づかい体験会」を実施しました。その概要は以下の通りです。「木づかい体験会」とは、ふくいの町で生まれ育った未就学の子どもたちに、同じくふくいでも育った木の良さを伝えるため、また木をはじめとした自然物に遊びを通して親しんでもらうための取り組みです。

今年度は、仁愛保育園の4歳児クラスと、ゆきんこ光陽こども園の5歳児クラスを訪問し、ふくいの木を使った遊びを行いました。

※3園で実施する予定でしたが大雪のためやむなく中止となりました。

◆活動内容

ふくいの木を使って自分だけのオリジナルバチを作って踊ろう！という活動を行いました。子どもたちがそれぞれ棒状の木をやすりがけし、ザラザラだった木をツルツルにしていくことで、木の性質に触れて楽しむ姿が見られました。また、シールやマジック、毛糸などで飾り付けすることで自分だけのバチが完成され愛着が湧いている姿も見られました。それぞれの完成したバチを持ち、私たちが考えた振り付けと一緒に踊る体験をし、楽しい時間を過ごすことができました。

◆実施して感じたこと

子どもたちの身近なところに木は使われています。机や椅子、廊下、校庭にある木、そしておもちゃなど、木に自然と触れて生活し遊んでいる子どもたちの姿があることを知り、改めて子どもたちにとって木の存在は大切なのだと思います。特に今回の活動で感じたことは、木は五感を刺激するのにとても良いということです。木は温かみがあるだけでなく、やすりがけをすることで手触りが変わることや、色の

変化、匂いがより感じられるなど、子どもたちからたくさんの声があがりました。自分でやすりがけをして気づいた変化は、子どもたちにとって大きいものだったと思います。

活動を終えた子どもたちが机を触りながら、「これもツルツルしているからやすりがけしたのかなあ」という声を聞くことができました。この活動をとおして、子どもたちの中に自分たちが日常生活で使っている木の机や椅子は誰かの手によって作られていることがより感じられたのではないかと思います。子どもたちが楽しそうに木に触れ活動している姿をみることで嬉しかったです。



幼児教育学科卒業生対象

幼教ホームカミングデー

幼児教育学科 准教授 増田 翼

【日時】10月21日(土) 13:00~14:30

【場所】仁愛女子短期大学 C322

本学幼児教育学科の卒業生は、60年近くになる歴史のなかで8000名以上になります。多くの方々は、卒業後、保育・幼児教育関連の仕事に就き、その後も様々な人生を送りながらご活躍されていることと存じます。今回は、そうした卒業生の皆さんのなかでも、特に近10年（平成26年3月～令和5年3月）の間に幼児教育学科を卒業した方々を対象に、卒業生同士や本学教員との情報交換も兼ねた「ホームカミングデー」を開催しました。

当日は、たくさんの卒業生にお越しいただき、短大時代の友人や先輩後輩、先生方と和気あいあいとした雰囲気のなかで、仕事のこと、生活のこと、オススメのお店の情報交換など、様々なことを語り合いました。また、開催日を「仁短祭」と同日にしたことで、「仁短祭」における子ども向け企画「じんあいこどものくに」（幼児教育学科在学生担当）にもお子さんと参加していただきました。

コロナ禍がしばらく続き、久しぶりの卒業生対象企画の実施となりましたが、やはり対面でのふれ合いに勝るものはないと実感しました。来年度以降も、「ホームカミングデー」を実施する予定です。ぜひ卒業生の皆さん、じんたんに遊びに来てくださいね。



図書館の活動報告

附属図書館 竹下 真弓

図書館では、新たな本や知識と出会う場として、様々な企画や展示を実施している。今回は、2023年度に13回実施した中から、主な展示・企画を紹介する。

●2023年4月「本屋大賞受賞作品展」

2023年本屋大賞受賞作『汝、星のごとく』風良ゆう著をはじめ、候補作品あわせて10冊を展示した。

●2023年5月「みどりを楽しむ本」

5月は新緑の季節！ということで、みどりをテーマにした本を展示した。朝ドラ「らんまん」のモデルである 植物学者 牧野富太郎氏のコーナーも設けた。



●2023年7月「夏といえばやっぱりホラー！」

暑い夏にぴったりのこわ～い小説や絵本を33冊展示した。



●2023年8月「森田中学校の生徒さんが選んでくれた本」

森田中学校の2年生が、8月22日・23日の両日職場体験に来てくれた。図書館展示にも挑戦し、「今まで読んで中でおすすめしたい本」6冊と「これから読んでみたい本」4冊を選び、展示してくれた。



●2023年9月「図書館サポーター選書本」

後期の授業開始に合わせて、図書館サポーター16名が選書した本など73点と手作りのPOPを添えて展示した。



●2023年9-10月「本の顔！装画家特集」

思いがけない本との出会いを繋げてくれる装画家14人の作品を展示した。“読んでみたい！”と思わず手に取りたくなるようなカバーの絵やイラストの本を選んだ。



●2023年11月「推し活特集♡」

2021年には新語・流行語大賞にもノミネートされた"推し活"。11月4日が「いい推しの日」ということで、"推し活"に関する本を22冊展示した。



●2023年12月「エッセイ本特集」

寒さが本格的になり、家から出るのがおっくうになる季節。夜のおうち時間のお供に、エッセイ本を展示した。また、温かい料理の本や心温まる小説、冬に読みたい絵本などを30冊紹介した。



●2023年12月「第11回青空文庫表紙コンテスト」

Webサイト「青空文庫」には著作権の切れた古い文学作品が掲載されている。

その中から3作品（今年は、『トロッコ』・『赤とんぼ』・『わらと炭と豆』）を図書館が選び、作品の持つ魅力を一層際立たせる表紙を選ぶコンテストを実施した。受賞作は、どの作品も個性あふれる素敵な表紙だった。



※今年度優秀賞受賞作

●2024年1月「ニッポンのお正月＆カレー特集」

お正月にちなんだ図書や絵本と、1月22日（1982年全国で一斉にカレーが給食で提供された日）が「カレーの日」に制定されていることから、カレー関連の本を展示した。



●2024年2月「福井県ふるさとの日特集」

明治14年2月7日に福井県が誕生したことを記念して、「ふるさとの日」と制定されていることにちなんで、福井関連の本を29冊展示した。



それぞれの企画で展示した本の詳細等は、附属図書館HPまで。



図書館HPのQRコード

令和5年度報告

福井市子ども家庭センター 子育て支援室・相談室

室長 安井 弘二

子育て支援室・相談室は、福井市の事業委託「子ども相談事業・子育て支援事業」を行ってきましたが、福井市が令和6年度から「こども家庭センター」を開設するにあたって、当相談室の職員が毎日一人ずつ出向くことになりました。現在の相談室は『こども家庭センター分室』として存続し、委託されている残り1年間子どもの相談を継続し、子育て支援室は『アオッサ子育て広場』に名称を変更し、従来通り住民の皆様安心してご利用いただけるよう努力してまいります。



「ママと子の絵本とわらべうたあそび」



親子プログラム
「ミュージックケア」



親子支援
「はっぴいす mama」



感染症対策
「親子で手洗い」

【相談室～子ども相談～】

相談室では、心理担当職員らが18歳未満の子どもの養育や性格に関する相談等に応じました。相談者の多くは、子育て家庭の保護者で、内容としては「発育が遅いので心配している」「後片付けができない」「落ち着きがなくじっとしていない」「すぐにかんしゃくをおこす」等で育児やしつけについて負担を感じている方や家族関係でストレスを感じ精神的に不安定になっている方も多く、その思いを聴き必要に応じて助言等を行いました。

<令和5年度相談室対応件数>

子ども相談のべ件数	内訳：対応方法（件）				開所日数
	電話	面接	訪問	その他	
1,164件	805	284	54	21	309日

<令和4年度相談主訴割合>

養護	障がい	性格行動	不登校	適正	育児しつけ	その他
15.6%	0.3%	25.3%	2.4%	0.4%	32.6%	23.4%

【子育て支援室～福井市地域子育て支援センター～】

子育て支援室は、今年度は時間予約制を廃止し、午前・午後の2部制として開所しました。途中の休憩時間に室内を除菌し、利用者には入室前に健康状態を確認したり、入室時と退室時には手洗いをお願いするとともに利用者同士が密にならないように声を掛けたり、定期的な換気をしながら感染防止の徹底を図りました。

<令和4年度利用状況>

総利用者数	保護者数	子ども数	開所日数

<子ども年齢別利用状況（年度比較）>

子ども年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4～6歳児
令和4年度	25%	34%	15%	11%	14%
令和5年度	32%	36%	12%	8%	12%

また、利用者にはコロナ感染症以外に、こども園や保育所等で流行している病気などの情報を共有するため、壁に直近の情報を張り出し注意喚起しました。



季節の行事「ハンドベル演奏会」



「冬の時期の離乳食の話」

子育て支援室の主な事業

<子育て相談>

乳児相談ではミルクの飲む量が少ない、離乳食の作り方やどのくらいの量を与えてよいか分からない、食事を与えても食べてくれない、夜泣きが激しく困っている。寝返りが上手くできない、ハイハイをしない、歩行や発語が遅いため発達遅れではないか気になる、予防接種に関することや保育園入園に関する心配事等々々でした。

主に保育士が相談を受けますが、相談内容に応じて相談室の臨床心理士と連携しながら保護者と子どもの支援にあたりました。

＜子育て講座、親子プログラム＞

利用者に関心を持ってほしい内容や子育て力を高めってもらうために役立つ内容の話題提供を行いました。

項目	内容
子育て講座(学園連携含む)	・わらべうたあそび ・発熱など緊急時の対応
親子講座(ボランティア講師)	・えっちゃん絵本をよんで ・ミュージックケア
季節の行事	・たなばたのつどい ・まめまきごっこ
親子プログラム	・ママと子のおはなし会 ・つくってあそぼう
親支援事業	・はっぴいずmama ・ほっとるーむ はぐはぐ
地域支援活動	・松本公民館 ・桜木図書館



子育て講座「靴の選び方」



親子講座「お父さんも笑っちゃえ」

＜はっぴいずmama＞

転勤などで福井に転入してきて、地域のことが分からず不安に思っている利用者や、そのことで引きこもりがちな利用者に働きかけ、同様の境遇にある者同士が交流し情報交換する場を設定しました。昨年度からは市内在住者も加わることで子育てに関する話し合いの他にも耳より情報を豊富に得ることが出来たようです。

参加をきっかけに保護者の交流の輪が広がっています。

＜ほっとるーむ はぐはぐ＞

乳幼児期の子どもをもつ保護者を対象にグループワークを行いました。心理担当職員がファシリテーターとなって、子育てについて考えていること、感じていることなどを話し合う中で、自分自身について気づきが増えた、ストレスが軽減されたといった効果が得られました。

＜学園連携 子育て講座＞

幼児教育等を専門に研究する仁愛女子短期大学の教員を講師に招いて子育て講座を開催しました。また、学生の参加を得ることで、様々な世代が、子育て支援に参加する社会づくりを推進していきたいと考えています。

開催日時	テーマ/講師
5月26日(金) 10:00~10:30	わらべうたあそび 仁愛女子短期大学 坂本流美氏
9月22日(金) 10:00~10:30	えいごであそぼう 仁愛女子短期大学 野本尚美氏
11月25日(土) 10:00~10:30	いろいろな音を楽しもう 仁愛女子短期大学 木下由香氏
3月6日(水) 10:00~10:30	ミニコンサート 仁愛女子短期大学 坂本流美氏

講座に必要なものは学生らが手作りで準備をしてくれました。3歳位までの子どもが喜ぶわらべうたあそびを調べ、事前に練習を重ねて当日に臨んでくれました。そのような新鮮な感覚を持つ学生らが手遊び等を提供すると、子どもたちは夢中になって楽しんでいました。保護者からは、「童心にかえり、子どもと一緒に楽しむことができ有意義であった」「ちょっと工夫すれば、楽しい遊びが生み出せることを知り参考になった」等の感想が寄せられました。

＜仁短生 体験学習＞

幼児教育学科2回生が、子育て支援の授業の一環として子育て支援室にて体験学習を行いました。1日あたり2~3名の学生さんで実習しますが、利用者の方が思わず微笑んでしまうような素敵なエプロンあるいは靴下を着用して場を和ませてくれた方もいました。



＜子育て支援ボランティア た・ま・ごの会＞

過去に福井市と子育て支援室・相談室が協力してボランティア養成講座を開催し受講された方が中心となり、「子育て支援ボランティア た・ま・ごの会」を結成し9年が経過しました。子育て支援室の壁に季節のモチーフを飾り付けたり、親子活動の下準備、行事のお手伝いなど計40回のべ51名の方々に活動いただきました。



た・ま・ごの会 朗読劇を楽しもう

＜児童虐待防止普及啓発事業＞

国は11月を児童虐待防止月間と定めており、「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」が各県市町で繰り広げられており、福井市も県と協力し街頭キャンペーンやパネルの展示を実施しました。

また、期間中の令和5年11月23日(木)に、こども家庭庁保育政策課長の本後健氏の講演会がハピリンホールで開催された。その後に当所への視察があり、子育て支援室の環境整備に高評価をいただきました。

Finding Fukui in Tokyo 2023

県外で活躍する福井県企業の魅力を動画で発信するプロジェクト

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 澤崎研究室

澤崎ゼミ（担当教員：澤崎敏文）では、卒業研究活動の一つとして、学生が自ら取材をし、企業の魅力を発信する活動を行いました。今年度は、生活情報デザイン専攻2回生の水野ももこさん、山河莉瑚さん、吉田朱里さんが、福井を飛び出して、東京で活躍する福井の企業を取材しました。2019年度にも学生たちと東京の企業紹介を行いました。あれから4年。2024年3月には北陸新幹線福井・敦賀開業を控え、そのPR活動などを行う福井県東京事務所、アンテナショップ（ふくい食の國291・ふくい南青山291）、東京駅や山手線をはじめとする全国の駅の案内用サインを手掛けるサカイシルクスクリーン東京営業所の方を取材させていただきました。



【参加学生の感想】

- ・自分が知らない福井の魅力を東京でたくさん知ることができました。（水野さん）
- ・福井県の企業で、東京で活躍している企業がたくさんあることが分かりました。（山河さん）
- ・実際に企業を取材してみて、事前準備の大切さに気づくことができました。（吉田さん）

参加した学生たちは、東京での取材を通して、福井の良いところを再発見できたようです。制作した動画は、澤崎研究室のYouTubeチャンネル「さわらぼBiz」にて一般公開しています。（文責：松村羽純）



東京で活躍する福井を探せ！

Finding Fukui in Tokyo2023 YouTube動画

- 福井県東京事務所を取材
- ふくい食の國291を取材
- ふくい南青山291を取材
- 東京駅・サカイシルクスクリーンを取材



JR東京駅の許可を得て、特別に北陸新幹線のホームで撮影させていただきました。



※本事業は未来協働プラットフォームふくい推進事業の「福井版PBL支援分」に採択された事業です。

デザインの力で社会貢献

生活科学学科 生活情報デザイン専攻

ポスター作成で啓発活動！ 「サイバー防犯ボランティア」

福井県警がインターネット犯罪の被害防止につなげようと、毎年、福井大学、福井工大、仁愛大学、仁愛女子短期大学に「サイバー防犯ボランティア」を委嘱。2014年から続くこの活動の2023年度メンバーに、本学からは、生活情報デザイン専攻の小形文字子さん、加藤ひかるさん、川村海理さん、鈴木映菜さんの4人の学生が選ばれました。県警による研修でサイバー犯罪について学び、闇バイトやフィッシング詐欺への注意を訴えるポスターを作成するなど、啓発活動を行いました。



福井大学祭での活動

シニアのためのスマホアプリ 「いろどり+」のロゴをデザイン



情報システム開発会社の株永和システムマネジメントが開発した「いろどり+ (いろどりとす)」は、シニアのためのスマホアプリ。高齢者

がスマートフォンなどのデジタルデバイスを使いこなすようなアイデアが盛り込まれています。

そのアプリのロゴデザインに生活情報デザイン専攻の2回生が挑戦。大賞に1人、特別賞に3人が輝き、阿実愛佳さんの大賞作品は正式なロゴとして採用されました。



株永和システムマネジメントから表彰

ゼミ活動から生まれたグループ「こっしえる」が 消しゴムはんこの展示会を開催

「こっしえる」は、生活情報デザイン専攻のゼミ活動の一環で、「手作りのあたたかさを広めたい」をテーマに立ち上げたグループです。2023年11～12月には越前市の「越前千代鶴の館」で消しゴムはんこの作品約100点を展示しました。開催期間中には、一般の方を対象とした体験教室が開かれ、2024年の干支の辰の消しゴムはんこ制作ワークショップを実施しました。



ワークショップの様子 (越前千代鶴の館)

これからの地域デザインのあり方の模索、研究

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 准教授 前田 博子

私たちの暮らす福井県には豊かな自然と産業がある。RENEWをはじめ福井県内イベントの多くは伝統工芸を通して地域の魅力を伝えており、県外からの参加者も多い。一方、本学の学生は「福井には何もない」と言う。しかし、本学の学生は主として県内就職を希望しており、地元で生活を営み続けるにもかかわらず、地域特性を活かしたイベントや企画を知らず、余暇を県外のテーマパークやショッピングモールで過ごしている。決して何もないわけではないのに「何も無い」と言ってしまう若者世代へRENEW等の地域創生を主としたイベント・企画の浸透を深めるためには「行ってみる」「やってみる」き

かけづくりが必要である。加えてデザイナーや地域おこし協力隊として働く本学卒業生の仕事内容や余暇の過ごし方を伝えてもらう。身近なところにも私たちの暮らしを豊かにするためのデザインや仕掛け（ものづくりやことづくり）があることを知り、地域との関わり方や盛り上げ方の選択肢を増やした上で自分に合った関わり方、盛り上げ方を選択できる学生を育成するための模索、研究である。

大まかな流れは以下の通りである。

1. 地域デザインについての調査、研究
2. センパイ（本学卒業生）との意見交換会（図1、図2、図3、図4）



図1：ももこを頭の片隅に置いて帰ろう WS風景



図2：#みんなももこになる似顔絵 WS風景



図3：#みんなももこになる似顔絵 WS風景



図4：センパイとの意見交換会終了後、学生の描いた柄Tシャツをプレゼント

地域デザインを体験、理解した上でのものづくり産業と視覚デザインとの関わり、地域イベントへの参画についての講演とワークショップ参加

3. RENEWへの参加、工房体験（10月6日－8日）
4. 報告会の実施
5. RENEWプロデューサー新山直広氏との意見交換会（図5）
6. レポート「主体的に地域創生に参加する私の方法」提出

参加した吉川心は以下のように感想を述べている。

かなりたくさんさんの工房やショップをまわらせてもらってすごく楽しかったし、自分が考えていた伝統工芸とは全く違うものが多かったので驚きました。古風な、昔ながらのものを大切にしつつ新しいモノも取り入れていて、消費者の興味を惹きつけているなと思ったし、ただ、モノを売る、お金を稼ぐことだけに固執しているのではなく、人に伝統工芸をどのようにどう伝えるかをも考えていて、すごく見ていて興味が沸いたし、もっとこの機に福井の工芸品について知りたいと思いました。

身近なところにこんなに興味を持てるものがあるなんて思いもしなかったし、これまで東京や大阪、名古屋など都会に行きたいとか都会のご飯が食べたいとかいろいろ理想がありましたが、改めてこのRENEWに行ってみてから福井の魅力がより深く知れたし、都会とは違う、福井なりの魅力があるなと気づくことができました。

県外から職人になりたい！働きたい！と思って福井に来てくれている人もインタビューした人の中にいて、福井に来てくれて、福井に住んでくれて、福井の工芸品を受け継いでくれていると考えたらすごく嬉しい気持ちになりました。このように人が来てくれるということは魅力があるからなのだろうなと思いました。

自分たちはまだまだ福井のすべてを知れていないなと実感しました。そしてもっと福井のイベントに参加して、新しい福井についての発見ができたらいいなと思いました。(提出レポート原文まま)

当初福井のものづくりについては「眼鏡」と「越前和紙」、ことづくりについては「フェニックスまつり」「三国花火」と答えていた。中にはRENEWを知っている学生もいたがほとんどの学生が知らなかった。しかし最後のレポートには福井のものづくりについては「メガネ、越前和紙、越前打刃物、越前焼、箆筒、繊維、若狭塗、めのう細工、漆器、木材加工」、ことづくりでは「RENEW」を筆頭に「敦賀港イルミネーション、フクイコーヒーフェスティバル、メガネフェス、千年未来工芸祭、つつじ祭り、そば祭り、越前市サマーフェスティバル、ONEPARKFESTIVAL」多くのイベントやお祭りが加えられていた。ただ学生本人が主体的な企画者を目指すようなことはなく「ためになった」「参加してよかった」という一過性のイベントへの感想にすぎなかった。引き続き、彼女たちが福井に興味を持ち、関わり方を模索するかについては断言できないものの、「知る」「楽しむ」といった一定の成果はあったと言える。暮らしの道具を礎としたデザインと地域特性を活かした地場産業は多様な要素が組み合わさることで賑わいにつながる。学生たちが「関わる人」や「そうでない人」として持続的に関わるためには長期にわたる考察、模索が必要である。



図5：RENEWプロデューサー新山直広氏との意見交換会

仁愛女子短期大学研究紀要第56号「これからの地域デザインのあり方の模索、研究」より抜粋しました。

※本事業は未来協働プラットフォームふくい推進事業の「福井版PBL支援分」に採択された事業です。

栄養士養成課程における郷土の食文化継承

生活科学学科 食物栄養専攻 講師 森 恵見

令和5年4月から令和6年2月の期間に、生活科学学科 食物栄養専攻の1回生31名を対象に、調理学実習Ⅰの中で株式会社とば屋酢店および株式会社米五との協働による『栄養士養成課程における郷土の食文化継承』を目的に授業を行いました。第3次食育推進基本計画では、地域の食材を活かした郷土料理や伝統料理の継承や、地域や次世代へ伝えている国民を増やすことを目的としています。そこで、福井県内での「食文化研修旅行」を実施しました。このプログラムでは、学生全員が郷土料理や食文化に触れ、地元企業を訪問しました。

研修旅行前には、福井の食文化や企業について学習する事前グループワークを実施しました。

研修旅行では、とば屋酢店や米五の工場見学以外にも御食国若狭おばま食文化館でグループマメイド（食生活改善推進員）の方に教えていただきながら調理実習を行いました。研修の成果は11月の発表

会で共有され、学生たちは福井の味噌を使った食味比較や栄養豊富な食材を用いたレシピ開発を通じて、新たな視点から地域食文化を学びました。

この取り組みは、協力企業からも若い世代の視点が地域の食を革新するために重要であると評価していただきました。本専攻は高い就職率を維持しており、特に福井県内の就職率が高く、郷土の食文化継承を通じて、地域や次世代への貢献と食に関する企業への就職の橋渡しを果たしています。今回の学習は、地域企業の訪問や学外活動を通じて、講義や実験・実習だけでは得られない知識を得ることができました。特に、福井県の郷土料理や地元企業、調味料に関する学生の興味や関心を広げることができ、2回生に進むにあたり、さらに食の学びを深めることが期待されます。詳細はHPでも公開しております。

※本事業は未来協働プラットフォームふくい推進事業の「福井版PBL支援分」に採択された事業です。



研修旅行前の事前学習の様子



御食国若狭おばま食文化館での調理実習



とば屋酢店：工場見学の様子



米五：工場見学の前の味噌づくりの動画視聴の様子



研修旅行成果発表会の様子1



研修旅行成果発表会の様子2

保育の魅力発信事業

総合学務センター 入学・地域支援課

本学では、中学校や高校、保育現場と連携して、保育者や保育現場の魅力を発信する活動を行っています。保育者の仕事を体験する「保育現場体験ツアー」や、高校生が各自で保育に関するテーマを設定し探究活動を行う「保育の課題探究」など、キャンパスに隣接する仁愛女子短期大学附属幼稚園や仁愛保育園で実際に子どもたちや保育者と交流しながら開催しています。本学の充実した学習環境を活用して、将来の福井の保育を担う人材となる中学生や高校生に、「保育」への興味・関心や学びを深めてもらう機会を提供しています。

●保育現場体験ツアー

仁愛女子短期大学附属幼稚園で、高校生が「1日幼稚園の先生体験」をしました。さまざまな遊びで子どもたちと楽しく過ごしたり、園児が降園した後は幼稚園の先生の仕事を一緒に体験したりと、高校生に幼稚園の先生の魅力を感じてもらいました。

2023年8月1日(火) 参加人数45名

2023年12月26日(火) 参加人数23名



●保育の課題探究

保育に関心を持つ高校生が参加し、グループで一つの課題に取り組んだり、個人で興味のあるテーマを調べたりと、さまざまなやり方で探究活動を実施しました。実際に仁愛保育園に行き、子どもたちの様子を観察して情報収集し、本学教員のアドバイスを受けながら、理解を深めました。最後に探究の

成果をスライドにまとめ、発表をしました。

2023年8月2日(水) 参加人数8名

2023年12月27日(水) 参加人数7名



●高校個別の「保育現場体験」

高校生が高校からバスで本学に来学し、附属幼稚園での保育体験や本学幼児教育学科の授業体験、ランチ体験などを体験しました。

2023年6月20日(火) 啓新高校

2023年9月27日(水) 坂井高校



●中学校の授業での「ゲストティーチャー」活動

2023年9月25日(月)、藤島中学校の家庭科の授業に幼児教育学科の学生がゲストティーチャーとして参加しました。幼稚園訪問を間近に控えた中学3年生に、学生自身の実習での体験などを踏まえながら、幼児との触れ合い方や関わるうえで大事なポイントを伝えました。この活動の様子は、地元の新聞に掲載されました。



季節を感じられる壁面装飾を届ける

幼児教育学科 2回生 高橋 采希

私たち小川ゼミでは、季節を感じられる壁面を製作し、小児がんで入院している子どもたちに届けるという活動を1年間行ってきました。私たちがこの活動に取り組んだ理由は、小児がんと闘う子どもたちに壁面を通して季節を感じてもらい、少しでも楽しんでほしいという気持ちと、保育現場で役立つ壁面製作技術を身につける機会になるのではないかとこの気持ちがあったからです。季節を感じられる壁面の製作では、毎月のイベントやイメージなどの意見を出し合い、テーマを決め、素材を探しながらイメージを膨らませ、製作を進めていきました。また、毎月立体感を表現することと様々な技法（ぼかし技法）や素材（折り紙・モール・フェルト・綿など）を使って製作することを意識して取り組んできました。

例えば、6月の壁面ではスズランテープと綿を使用して虹や雲を立体的にしたり、7月では背景に優しさが出るように、クレヨンとティッシュを使ってぼかし技法を行ってみたいしました。今まで使ったことのある素材でも、使い方や貼り方を工夫するだけで見え方が大きく変わるということを知ることができました。また、4月ではアクリル絵の具と洗濯糊を用いたフルイドアートに挑戦してみました。実際に画用紙に絵の具を垂らしてみても、どんな模様になるのかが分からなかったのととても楽しかったです。

小児がんと闘う子どもたちに壁面を届ける中で、「がんの子どもを守る会」の荒木さんから壁面を見た子どもとその家族の様子や、「がんの子どもを守る会」が行っている活動・支援などについてのお話

を聞く機会がありました。私たちが作った壁面を見て、病棟にいる子どもたちが季節を感じることができていたり、保護者と子どものコミュニケーションのきっかけになったりしているということを知り、達成感を味わうことができました。また、少しでも多くの人に小児がんについて知ってもらえるように、仁愛女子短期大学の玄関ホールにゴールドリボンツリーを設置し、闘病中に子どもたちが描いた絵を掲示する活動も行いました。

ゼミ活動を通して、2023年6月分から2024年5月分まで壁面作りを行い、入院している子どもたちに壁面を通して季節を感じてもらえることができたのではないかと思います。壁面作りを通してでは、役割分担をすることで効率よく作業を進めることができたり、細かい部分までこだわることで完成度を高めることができたり、バランスよく配置することでテーマに沿ったまとまり感が出たりするのを知りました。また、壁面を作る際の技術もたくさん身につけることができました。これらの経験を活かして、それぞれの現場で今後役立てていきたいと思っています。



福井新聞社主催「ふくまむ祭」への参画

幼児教育学科 2回生 木下ゼミ

浅田彩純・伊部あさか・山腰琴心・山本若菜・前田春奈・山北ひかり・清水七泉・鈴木唯心

【日 時】10月1日(日) 10:00~15:00

【場 所】福井新聞社1階

【内 容】仁愛短大ブース「お姉さんたちと遊ぼう！」
(新聞プール)

ステージイベント「仁愛女子短期大学生による楽器体験ミニコンサート」

私たち木下ゼミは音楽活動を中心に活動を行っています。例年、「ふくまむ祭」という親子向けのイベントに、木下ゼミは参加させていただいています。今年も、声をかけていただき、私たちもゼミ生8名全員で、参加させていただくことになりました。会場である福井新聞社の1階には、様々なブースが設けられ、その一画で私たちは、新聞紙を使った〈新聞プール〉を行いました。主な準備として、新聞紙・プール(膨らませるタイプ)でした。この2つは事前に、新聞社の方が準備をしてくださっていたので、手際良く当日準備に取り掛かることができました。子どもたちが遊ぶ様子では、一人ひとり遊び方も異なっていて、楽しそうにしていました。また、保護者の方々も、子どもたちが楽しそうに新聞紙で遊ぶ姿に笑顔浮かべられていました。そして、ブースにラジカセで音楽をかけたことにより、子どもたちがより一層楽しめるような環境を作ることができたと思います。普段、地域の方々とのこのようなイベントの機会はなかなかないので、貴重な体験となりました。さらにブース以外では、風の森ホールで〈楽器体験ミニコンサート〉をさせていただきました。私たちは、普段子どもたちが、園で歌っているような童謡を用いて、楽器体験を行いました。コンサートに来ていた子どもたちの中には、乳児から小学生くらいまでの年齢の幅がありました。なので、楽器の使い方の説明が難しく、子どもたちに主体性を与えながらも興味を持てるような遊びを提供するの、

簡単ではありませんでした。私たち自身も、練習時間が限られた中での本番だったので、環境構成として至らなかった部分もありました。ですが、子どもたちが楽しそうに楽器に触れる姿を見て、満足感を私たちも得ることができました。今回、この「ふくまむ祭」を通して、音楽で人と関わることの必要性や充実感、そして人前に出て発表をすることの緊張感や楽しさを学ぶことができました。この経験を、これからにも活かしていきたいと思います。

(代表：山北ひかり)



社会的活動報告

学生と地域の子どもが触れ合う環境づくりプログラム 「じんあいこどものくに」

幼児教育学科

【日 時】10月21日(土) 10:00~15:00

【場 所】仁愛女子短期大学

仁愛女子短期大学幼児教育学科では、2009年度から、10月に開催される仁短祭の一環として、「じんあいこどものくに」を実施しています。1・2回生各クラス（3クラス×2学年 計6クラス）で子ども対象の出し物を企画し、各クラスの実行委員を中心に、自分たちで企画した出し物の中で地域の子どもたちと触れ合い、一緒に楽しく遊ぶ体験を通して、学生の保育実践力を育成することを目的としています。

5月のMH（ミーティングアワー）から各クラスで子ども達と触れ合う企画の話し合いを始めました。今年度の仁短祭は、2年ぶりに入場者を制限しない開催となったため、当日は多くの親子連れで賑わいました。（来場者：乳幼児155名、小学生71名、大人174名 計400名）



各クラスの内容は次の通りです。

- 1-A とりっくおあとりと
～ハロウィンパーティーへようこそ～
- 1-B シールをあつめておかおをつくろう
- 1-C アートのもり（手形アート）
- 2-A どんどんねらえ まとあてゲーム
- 2-B がっこうたんけんしよう！！
～なぞなぞスタンプラリー～
- 2-C 秋まつりにおいで！！

〈学生の感想〉

幼児教育学科2回生 太田 風咲

私たちBクラスは、『がっこうたんけんしよう！！～なぞなぞスタンプラリー～』を行いました。E館の中を探検しながらも、全6か所のなぞなぞを解き、全てスタンプが埋まったら、景品として折り紙をプレゼントしました。このなぞなぞスタンプラリーのイベントは、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。特に、自分たちで消しゴムはんこのスタンプを彫る作業はとても面白かったです。スタンプを彫ること自体が初めての経験だったため、最初は戸惑いもありましたが、グループのみんなで試行錯誤しながら、上手に彫ることができました。また、消しゴムはんこを作るという作業は、私たちの創造力や手作りの楽しさを引き出すことができ、自己表現の一環としても良い経験になりました。

じんあいこどものくにには、様々な年齢の子どもが遊びにきます。そのためイベントを企画していく中で配慮した点が2つあります。1つ目は、消しゴムはんこに持ち手を付けることです。持ち手を付けることによって、スタンプを押しやすくすることや手が汚れるのを防ぐことにも繋がりました。2つ目は、なぞなぞの問題についてです。どの年齢でも楽しめるように問題の難易度をグループごとで考え、話し合いました。たとえば、なぞなぞの問題を平仮名で書いたり、イラストを加えたりなど、小さい子でも楽しめるように配慮しました。言葉だけでなくイラストもあることで、平仮名が読めない子でも問題を理解しやすくなったと思います。

イベント当日、なぞなぞを解きながらスタンプラリーをする子どもたちを見てみると、友達と一緒に考えて話し合っって答えを導く姿がありました。また、保護者の方はすぐに答えを教えるのではなく、「どうだと思う？」と問いかけて一緒に考えている姿があ

りました。問題の答えをすぐに言わずに一緒に考える姿勢を促すことで、子どもたちの思考力や発想力を引き出すことができました。子ども達が全問正解したときの喜びや達成感はとても素晴らしいものになったと思います。最後に景品として、折り紙を渡しました。折り紙をもらって喜んでいる姿を見て、手作りの楽しさや創造力を再確認することができました。

今回、私はクラスリーダーと実行委員を努めさせていただきました。みんなの意見に耳を傾け、まとめることの難しさや限りある準備期間の中で見通しをもって計画を立てることの大切さを学びました。この「じんあいこどものくに」を通して、企画・準備・実践することは、学びの機会として大変有意義なイベントでした。これらの経験を今後、働こうえで活かしていきたいと思います。

※本事業は未来協働プラットフォームふくい推進事業の「福井版PBL支援分」に採択された事業です。



1-C アートのもり (手形アート)



2-A どんどんねらえ まとあてゲーム



1-A とりっくおあとりと〜ハロウィンパーティーへようこそ〜



2-B がっこうたんけんしよう!! ~なぞなぞスタンプラリー~



1-B シールをあつめておかおをつくろう



2-C 秋まつりにおいで!!

令和5年度 公開講座開催一覧

【木製ロボットとプログラミングで遊ぼう！】

内 容	グッド・トイ2018にも選ばれた、木のおもちゃキューベットと一緒に遊びながら、プログラミングの基礎を身につけます。
開催日時	令和5年7月22日(土) 14:00~15:00
講 師	本学 生活科学学科 生活情報デザイン専攻 教授 田中洋一
会 場	仁愛女子短期大学 F203
参加人数	6組17人

【さあ、マックでお絵かき。】

内 容	AppleのMacを使って、世界中のデザイナーが使うアプリで、いろいろイラストを描いてみよう。
開催日時	令和5年8月22日(火) 10:00~12:00
講 師	本学 生活科学学科 生活情報デザイン専攻 教授 西畑敏秀
会 場	仁愛女子短期大学 B411 (CG室)
参加人数	9組18人

【木を使った造形あそびに挑戦してみよう】

内 容	「造形あそび」は、ものと向き合い体を動かす中でいつのまにか作品が出来ていく活動です。木などの材料を切ったり接着したりしながら好きな形を作っていきます。
開催日時	令和5年8月26日(土) 10:00~11:30
講 師	本学 幼児教育学科 教授 重村幹夫
会 場	仁愛女子短期大学 F102
参加人数	8組26人

【保育で使える動画編集】

内 容	スマホやタブレットの動画編集アプリを用いて、簡単な動画づくりにチャレンジします。テレビ・SNSなどで見かける一般的な動画の作成方法を踏まえつつ、参加者一人ひとりが1分程度の動画が作れるようになります！普段の保育場面をまとめたり、園の情報発信をしたりできるようになりますよ。
開催日時	令和5年8月26日(土) 10:00~12:00
講 師	本学 幼児教育学科 准教授 増田 翼
会 場	仁愛女子短期大学 B101
参加人数	15人

令和5年度幼稚園教諭・保育教諭等キャリアアップ研修（共催：福井県私立幼稚園・認定こども園協会）

【「保育ドキュメンテーション」って、どういうこと？～保育ドキュメンテーションの活用あれこれ～】

内 容	子どもと保育者が共に響き合い、学び合うという保育。それは、時間をたっぷりかけながら、子どもたちの関心事を深く追究・探究するなかで実現していきます。そうした保育の在り方をサポートしたり、より充実したものにしたりするためのツールとして、昨今「保育ドキュメンテーション」が注目されています。さあ、「保育ドキュメンテーション」について皆さんで考えてみましょう！
開催日時	令和5年8月28日(月) 14:00~16:30
講 師	本学 幼児教育学科 准教授 増田 翼
会 場	仁愛女子短期大学 C421
参加人数	57人

令和5年度幼稚園教諭・保育教諭等キャリアアップ研修（共催：福井県私立幼稚園・認定こども園協会）

【子どもの姿を捉える、とは言うけれど…～あなたとわたしの「ちがう」が大切～】

内 容	保育者としてのあなたには、子どもの何が見えていますか？もちろん、見えていない部分もあるかもしれません。そもそも、ほかの先生は、何を見ているのでしょうか？「子どもの姿を捉える」とはよく聞くフレーズですが、そんなに簡単なことではないですよ？些細なトピックをいくつか挙げながら、参加者の皆さんは普段、何を見ているのか、共有してみませんか？
開催日時	令和5年8月29日(火) 14:00～16:30
講 師	本学 幼児教育学科 准教授 増田 翼
会 場	仁愛女子短期大学 C421
参加人数	43人

【福井の食を知る②「ふくい発酵食品」～ドレッシングづくり体験～】

内 容	海・里・山の幸に恵まれた福井県には、古くからへしこやなれ寿司、酒、味噌、醤油、酢など様々な発酵食品があります。これらは、発酵というプロセスによって、旨味や風味が増し、保存性が高まるだけでなく、私たちの健康にも役立つことがわかってきました。そんな「ふくい発酵食品」の魅力に迫ります。福井の醤油とお酢を使った和風ドレッシングづくりもお楽しみ！
開催日時	令和5年9月2日(土) 10:30～12:00
講 師	本学 生活科学学科 食物栄養専攻 教授 小林恭一
会 場	仁愛女子短期大学 B101
参加人数	8組12人

【染め&プリント体験】

内 容	参加者全員で布を染めて、あなたが描いた絵や文字をスクリーンプリントしませんか。 ①1回目：下地制作、図案制作 ②2回目：スクリーンプリント
開催日時	①令和5年9月9日(土) 10:00～12:00 ②令和5年9月30日(土) 10:00～12:00
講 師	本学 生活科学学科 生活情報デザイン専攻 准教授 前田博子
会 場	仁愛女子短期大学 中庭・B401
参加人数	7人

【親子のための楽しいコンサート】

内 容	本学幼児教育学科生による親子を対象としたミニコンサート♪童謡や子どもたちに馴染みある曲などを演奏します。子どもたちが元気に歌ったり踊ったりできる参加型コンサートを予定しています。気楽にご参加ください。
開催日時	令和5年9月30日(土) 10:30～11:30
講 師	本学 幼児教育学科 准教授 河野久寿 〈ゲスト〉幼児教育学科 卒業生、幼児教育学科 河野ゼミ生
会 場	仁愛女子短期大学附属幼稚園 体育館
参加人数	117人（附属幼稚園からの参加者含む）

【カイコを育ててみよう！】

内 容	日本の近代化を支えたカイコの生態と飼育方法について学びます。また、生きているカイコを観察したり、繭から糸をとったりするなど、実際に体験してみましょう！
開催日時	令和5年9月30日(土) 13:00~15:00
講 師	本学 幼児教育学科 准教授 増田 翼
会 場	仁愛女子短期大学 F102
参加人数	9組19人

【Autumn English Camp -自然の中で英語を学ぼう！-】

内 容	英語を使ったゲームや野外でのプチキャンプ体験を通して、親子で楽しく英語を学びましょう！
開催日時	令和5年10月28日(土) 13:30~16:00
講 師	本学 生活科学学科 生活情報デザイン専攻 准教授 野本尚美 〈協力〉福井県キャンプ協会
会 場	仁愛女子短期大学 学生ホール・芝生広場
参加人数	5組11人

【食育講座 ~親子でデコレーションケーキづくり~】

内 容	おうちで一緒に、ケーキを作りたいけど準備が…と思っている皆さん。短大の広い調理室を使って、親子でデコレーションケーキしてみませんか。フルーツなどを飾り付けて世界で一つだけのクリスマスケーキを作りましょう！
開催日時	令和5年12月24日(日) 10:00~12:00
講 師	本学 生活科学学科 食物栄養専攻 講師 森 恵見
会 場	仁愛女子短期大学 C115 (調理実習室)
参加人数	13組42人

【食育講座 ~練り切り講座~】

内 容	和菓子の中でも上生菓子と呼ばれる「練り切り」。実は可愛くデコレーションできます。可愛くて食べるのがもったいないくらいです。季節に応じた可愛い練り切りを、一から作ってみませんか？工作みたいで楽しいですよ。
開催日時	令和6年3月2日(土) 10:00~12:00
講 師	本学 生活科学学科 食物栄養専攻 講師 森 恵見
会 場	仁愛女子短期大学 C115 (調理実習室)
参加人数	6組12名

幼児教育学科卒業生対象 幼教ホームカミングデー

内 容	短大時代の友人同士、お世話になった先生方と久しぶりの再会をしませんか？卒業後の経験や近況など自由に語り合う場として、この機会をぜひご利用ください。
開催日時	令和5年10月21日(土)
講 師	幼児教育学科
会 場	仁愛女子短期大学 C322
参加人数	11人

教員の地域活動一覧

●生活科学学科

(専攻別・五十音順)

専門分野	氏名	講演や講座のテーマ・内容など
生活情報デザイン専攻	コミュニケーションマーケティング経営	<ul style="list-style-type: none"> ●効果的なプレゼンテーション手法について ●地域におけるマーケティングのあり方について ●ソーシャルメディアとビジネスの活用 ●地域ビジネス、企業等におけるマネジメント ●企画立案、広報手段について ●コミュニケーションのあり方 ●キャリアデザイン、学びと学習環境等
	教育工学 学習科学	<ul style="list-style-type: none"> ●保育者のためのパソコン教室 ●幼稚園における視聴覚教育研修 ●eポートフォリオ活用の研修 ●アクティブ・ラーニングのための授業設計の研修
	データサイエンス 情報工学	<ul style="list-style-type: none"> ●Pythonを用いたデータサイエンス講座 ●EXCEL基礎・応用講座 ●AIチャットボット作成講座 ●DX導入講座
	英語教育 第二言語習得論	<ul style="list-style-type: none"> ●洋楽で英語を学ぼう ●幼児向け英語教室 ●小学生向け英語教室
	テキスタイルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ●地域社会とデザイン・アート「繊維とデザイン」
	UI/UXデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラミング講座「形と色のふしぎ」 ●UI/UXデザインのプロセス ●Googleフォーム+スプレッドシートを活用した業務効率化
食物栄養専攻	栄養管理	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの食の問題と栄養 ●「おいしい」と「健康」は両立できるのか？ ●「食べる」からはじめるフレイル予防～低栄養予防のための食生活～ ●管理栄養士国家試験対策リカレント講座「給食経営管理概論」 ●元気な育ちを支える食事バランス
	食品学 食品加工学 農産製造学 応用微生物学	<ul style="list-style-type: none"> ●野菜の栄養・機能成分について ●食品添加物の話 ●食品加工の基本 ●6次産業化のための普及活動のポイント ●サトイモ加工に関する取り組み、6次産業化について ●6次化に取組む時に考えなければならないこと ●加工食品の知識 ●福井県農産物の加工技術・食品開発 ●管理栄養士国家試験対策リカレント講座「食品学」「食品衛生学」 ●福井ウメの機能成分解析と特長を活かした利用加工 ●野菜の栄養・機能性成分と機能性表示食品 ●福井梅の歴史、栄養、機能性、加工利用、研究開発事例 ●自然は美味しい?!～発酵食品と食品添加物の話～ ●栄養成分表示の活用について ●「福井梅」の栄養・機能性を活かした利用加工 ●福井の食を知る①「福井梅」梅シロップ作り体験 ●福井の食を探る「梅」と「らっきょう」 ●農業ビジネスと6次産業化について ●福井の食を知る②「ふくいの発酵食品」しょうゆドレッシング作り体験 ●ふくいの加工食品あれこれ ●永く守り、受け継ぎたい伝統の福井野菜 ●加工食品の知識と視る目を養う ●ジャム作りの基礎
	生物科学 社会医学	<ul style="list-style-type: none"> ●管理栄養士国家試験対策リカレント講座
	公衆栄養学	<ul style="list-style-type: none"> ●「日本人の食事摂取基準2015」を活用した児童福祉施設における栄養管理 ●食と健康－生活習慣病予防で健康寿命を延ばそう－ ●働く女性の健康管理－食事の工夫－ ●女性の健康と食生活 ●健康は栄養管理から－低栄養のキケン－ ●新たな日常に対応した「食」 ●管理栄養士国家試験対策リカレント講座「栄養教育論」「公衆栄養学」「応用栄養学」
	調理科学	<ul style="list-style-type: none"> ●親子で作るデコレーションケーキ ●食育講座（調理実習） ●親子クッキング ●離乳食教室

● 幼児教育学科

(五十音順)

専門分野	氏名	講演や講座のテーマ・内容など
健康体力学 測定評価学	内田 雄	● 児童厚生指導員研修会「ゲーム・運動遊び」 ● 小学校1.2.3年生が楽しめる室内遊び、昔遊び ● 保育者ワークショップ「昔遊びを楽しもう」 ● ゲーム・昔遊び
保育	小川 智枝	● 保育士スキルアップ研修 主任保育士研修「子ども家庭支援論」 ● 子育て講座「子育てってなんだろう」
仏教学 仏教保育学 おもちゃ学	香月 拓	● 新人保育者スキルアップ「新聞紙で遊ぼう」 ● こどもの成長とおもちゃあそび ● メンタルケア・スペシャリスト養成講座「死生論Ⅰ」 ● 子育て講座「おもちゃで育む親子のふれあい」 ● 自分とは何か-お釈迦様のことばに学ぶ- ● 人生は楽しいもの? 苦しいもの? -お釈迦様のことばに学ぶ-
幼児教育 幼小接続	川崎 恵理	● 遊びの中の学び ● 幼児の発達に応じた保育内容教育 ● 幼稚園教育要領解説 ● 今求められる保育実践 ● 5歳児から1年生というとらえ方
音楽教育 ピアノ教育 ピアノ演奏	木下 由香	● ふるさと子どもコンサート ● 出張音楽堂 ● ピアノ公開講座 ● 親子のための虹色コンサートin大野「手作り楽器ワークショップとミニコンサート」 ● ポルタDe' ファツィオリ「ピアノふれあい体験」 ● 聴いて、見て、動いて楽しむ! 0歳からのクラシックコンサート ● いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭 ● 親子のための虹色コンサート in AOSSA ● Fukui Art Baton ● AOSSA子育て支援室「いろいろな音を楽しもう」 ● 親子で簡単♪手作り楽器を楽しもう! ● 越前まなぼう座「親子でわくわく子ども教室」親子と一緒に! 手作り楽器を楽しもう! ● ピアノで奏でる絵本の世界 ● まちかどコンサート ● ステージできくはじめてのコンサート ● 手作り楽器ワークショップ ● 越前市幼稚園教育研究部夏季研修「リトミック、リズム遊び」 ● 親子で楽しむピアノと絵本 ● ピアノで奏でる絵本の世界 ● AOSSA子育て支援室「たのしい音楽あそび」
幼児造形指導法 洋画制作 洋画原書翻訳 明治期日本における洋画の受容	重村 幹夫	● 明治前期の油絵技法材料について ● 小学校低学年児童が作って遊べる遊具 ● クレヨンで動物を描きましょう ● 幼児の造形や既習能力に応じた造形活動のあり方について ● 造形を通した子どもとの関わり方 ● 幼児の主体的な造形活動のために-「造形遊び」を中心に- ● 幼児造形の指導法
児童発達支援 特別支援教育	中尾 繁史	● 気になる子への支援教材の作り方 ● 情報共有のための観察と記録の視点 ● 子どもの『あのね』を引き出す関わり方 ● 『気になる子』への対応
日本文学 日本児童文学 絵本	前田 敬子	● 保育者ワークショップ 書くこと、読むことの保幼小連携 ● 伝わる文章の書き方 ● 保幼小接続講座「絵本の世界」 ● 絵本や物語に親しむ ● 恋する山川登美子 ● 感想文の書き方 ● 歌う金子みすゞ ● 加古里子の絵本
保育学・教育学 保育・教育思想史 保育・教育方法学 保育者論	増田 翼	● 4歳児の育ちについて ● 保幼小連携について ● 外国籍の子どもや保護者は何に困っているのか ● 歌う楽しさの原点にあるものは? ● 指導要録 保育要録について ● 子どもが対話する保育 ● スマホ育児 ちょっとだけでも分かっておきたいこと ● 保育で使える動画編集 ● 子どもの遊びの理解と支援 ● 「保育ドキュメンテーション」って、どういうこと? ● 気がかりな子を包み込む集団づくり ● 子どもの姿を捉える、とは言うけれど… ● 連絡帳の書き方 ● カイコを育ててみよう! ● 保育における環境構成 ● しつけて難しいですよね? 令和時代における子どもとの距離感 ● 5領域 10の姿について

2023年度 管理栄養士国家試験対策リカレント講座

	開講日	教 科	講 師	参加者数
第1回	9月21日(木)	栄養教育論	牧野みゆき	4
第2回	9月28日(木)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)	谷 政八	3
第3回	10月5日(木)	食べ物と健康(食品学)	小林 恭一	3
第4回	10月12日(木)	基礎栄養学	高木 康之	4
第5回	10月19日(木)	応用栄養学	牧野みゆき	4
第6回	10月26日(木)	食べ物と健康(調理学)	森 恵見	5
第7回	11月9日(木)	食べ物と健康(食品衛生学)	小林 恭一	5
第8回	11月16日(木)	社会・環境と健康	出口 洋二	4
第9回	11月30日(木)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(解剖生理学)	齋藤 正一	4
第10回	12月7日(木)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(病理学)	齋藤 正一	4
第11回	12月14日(木)	給食経営管理概論	木内 貴子	3
第12回	1月11日(木)	臨床栄養学(診断)	齋藤 正一	2
第13回	1月18日(木)	公衆栄養学	牧野みゆき	4

SOCIUS [ソシアス]
No.18

2024年3月31日 発行

仁愛女子短期大学 総合学務センター
入学・地域支援課 地域連携室

〒910-0124 福井市天池町 43-1-1
TEL.0776-56-1133
E-mail jissen@jin-ai.ac.jp



仁愛女子短期大学

総合学務センター
入学・地域支援課 地域連携室